

洋上風力 戦略産業クラスター計画（東北地域）の概要

現状と課題

東北地域のポテンシャル（強み）

- 海洋再エネ整備法に基づく促進区域12区域のうち半数の6区域が東北。
- この6区域における合計の発電容量は2.9GWと見込まれ、現状の促進区域の全体発電容量の半数を占める。
- 国内基地港湾7港のうち4港を抱える地域。
（能代港、秋田港、青森港、酒田港）
- 風力人材育成（GWO取得等）のためのトレーニングセンター等が複数箇所開設され運営中。

● 現状（その地域・産業を取り巻く将来の見通し）

- 当該エリアは洋上風力を核とした産業クラスター形成に向け、具体的な投資案件やインフラ整備、人材育成、サプライチェーン構築が着実に進展中。

● 課題

港湾インフラの整備・拡充

- 現状では、港湾施設の老朽化や容量不足や岸壁や係留施設の不足が課題。

人材不足と育成体制の整備

- 専門的な技術者や作業員の確保・育成が喫緊の課題。

サプライチェーンの国内・地域内構築

- 現状、風車部材や関連設備の一部が海外依存であることから、国内および地域内での調達体制の構築が課題。



※経済安全保障＋エネルギー安全保障上、国内生産体制を一定程度保有することが重要であり、また発電所集積地で保有することが最も合理的である。

進行中の大規模投資案件と取組

● 核となる大規模投資案件【道筋】

【合同会社八峰能代沖洋上風力
（秋田県八峰町・能代市沖）】

※ 海洋再エネ整備法 促進区域指定の6区域

2029年運開予定

【男鹿・潟上・秋田Offshore Green Energy合同会社
（秋田県男鹿市・潟上市・秋田市沖）】

2028年運開予定

【つがるオフショアエナジー合同会社（青森県日本海沖）】

2030年運開予定

【山形遊佐洋上風力合同会社
（山形県遊佐町沖）】

2030年運開予定

<再公募予定>

【秋田県能代市・三種町・男鹿市沖】

【秋田県由利本荘市沖】



秋田洋上風力発電(株)HPより

● 課題解決に向けた取組【政策手段】

港湾インフラの整備・拡充

- 基地港湾およびO&M港湾の整備、並びに後背地の産業用地整備を一体的に開発。

人材育成体制の強化

- 専門人材の人材確保、育成体制の充実。

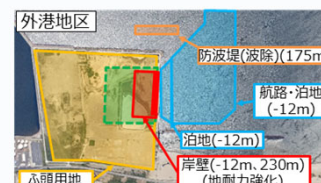
サプライチェーンの国内・地域内構築

- 企業誘致や地元企業の参入支援を実施。
- 発電事業者やEPC事業者による受発注機会の創出。

● インフラ整備の例

酒田港基地港湾整備

岸壁の地耐力強化（大型風車対応）、泊地・航路整備、防波堤整備、ふ頭用地整備



基地港湾・酒田港
（山形県酒田市）

目指す姿【目標】

「産業の持続的成長と地域経済の活性化を実現」

- 基地港湾の整備やO&M機能の実装を進めることで、建設から維持管理に至る一貫した産業基盤を形成し、国内外の関連企業の集積を促進、これにより、当該エリアが国際競争力を有する洋上風力産業クラスターを確立する。
- 人材育成数の拡充やサプライチェーンの地域内構築を推進し、専門技術者や実務人材の安定的な確保を図ることで、産業の持続的成長と地域経済の活性化を実現する。

官民設備投資額

【KGI】約3,924億円（2040年まで）

【KPI】2030年時点累積額：約357億円、件数：6件

※OPEXを1.23万円/kW/年とし、促進区域の想定発電量から算出。運転期間は一律2030～2040年と設定。

付加価値増加額

【KGI】約9,177億円（2040年まで）

【KPI】2030年時点累積額：約834億円

人材育成数

【KGI】約950人（2040年まで）

【KPI】2030年時点累積人数：272人

<関連産業の立地・集積を推進>

- 洋上風力発電所の国内随一の集積地である東北日本海地域は、大きなポテンシャルを活かして洋上風力関連産業の集積化を実現。

